

けん
ダモクレスの剣ダモクレスの剣^{けん}

(古代ギリシャの伝説)

昔、シチリア島のシラクサという国に、ディオニシオスという王がいました。王のそばに仕えるダモクレスは、いつも、王の暮らしをうらやましく思い、「王様ほど幸せな人はいません。」と口にしていました。王は、たくさんの宝や広い宮殿^{きやうてん}を持ち、国じゅうの人々をしたがえていたからです。

ある日、王はダモクレスに言いました。「それなら、一日だけ、わたしの代わりに王の席に座ってみるがよい。」

ダモクレスは大喜びで、ごうかなごちそうが並ぶ席に着きました。ところが、ふと天井を見上げると、自分の頭の真上に、一本のするどい剣^{けん}が、たった一本の馬の毛でつるされているではありませんか。

ダモクレスは、ごちそうを味わうどころではなくなり、青ざめて、王に席を代わってくれようたのみました。

王は言いました。「王の暮らしとは、こういうものなのだ。いつも、命をねらわれる危険と、となり合わせなのだよ。」

ダモクレスは、それから二度と、王の暮らしをうらやむことはなかったといいます。

この話から、栄えている中にも、常に危険がひそんでいることを、「ダモクレスの剣^{けん}」と言うようになりました。



1 ダモクレスは、だれの暮らしをうらやましく思っていましたか。

の暮らし

2 ダモクレスの頭の真上には、何がつるされていましたか。

ア かんむり

イ するどい剣^{けん}

ウ 大きな鏡

3 ダモクレスが、ごちそうを味わうどころではなくなったのは、どうしてですか。

4 王は、ダモクレスに、どんなことを伝えたかったのですか。